

主 文

本件各上告を棄却する。

被告人Aに対し当審における未決勾留日数中百二十日をその本刑に算入
する。

当審における訴訟費用は被告人Aの負担とする。

理 由

被告人A並同弁護人矢部克己、被告人B並同弁護人神谷作祥の各上告趣意（後記）
は、刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。また記録を精査しても同四一一条を適用
すべきものとは認められない。

（起訴状の「昭和二四年一二月一五日」は昭和二三年一二月一五日の誤記である
こと明瞭である）

よつて同四一四条三八六条一項三号、一八一条、刑法二一条により主文のとおり
決定する。

この決定は、裁判官全員一致の意見である。

昭和二六年五月一五日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	長 谷 川	太 一 郎
裁判官	井 上	登
裁判官	島	保
裁判官	河 村	又 介